

29年12月分 製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成29年 12月1日～ 29年12月10日

2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
12月分の回答企業数は6社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/12月	30/1月	2月
入荷動向	国産材製材品	△ 33.3	△ 16.7	△ 8.3
	外材製材品	△ 50.0	△ 41.7	△ 8.3
	その他	0.0	0.0	0.0
販売動向	国産材製材品	25.0	16.7	8.3
	外材製材品	0.0	△ 16.7	△ 16.7
	その他	0.0	0.0	0.0
在庫動向	国産材製材品	△ 16.7	△ 16.7	0.0
	外材製材品	△ 91.7	△ 8.3	△ 16.7
	その他	0.0	0.0	0.0

・国産材、外材製材品の入荷動向は3カ月連続減少。その他は3カ月連続横ばい推移。

・国産材製材品の販売動向は3カ月連続増加。外材製材品は12月の横ばいから1月、2月は減少。その他は3カ月連続横ばい推移。

・国産材製材品の在庫動向は12月の横ばいから1月は減少、2月は再び横ばいに。外材製材品は3カ月連続減少。その他は3カ月連続横ばい推移。

(2) 価格動向 Weight. D. I.

品目		29/12月	30/1月	2月
スギ	柱角 KD10.5×3	41.7	16.7	8.3
	柱角 KD12×3	16.7	0.0	0.0
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	8.3	0.0	0.0
	母屋角	8.3	0.0	0.0
	タルキ	8.3	0.0	0.0
	間柱	8.3	0.0	0.0
	加工板	0.0	0.0	0.0
	ヌキ	8.3	0.0	0.0
	平割	8.3	0.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	50.0	16.7	8.3
	柱角 KD12×3	25.0	0.0	0.0
	土台角 10.5×4	50.0	16.7	8.3
	土台角 12×4	33.3	0.0	0.0
	通し柱 12×6	20.0	0.0	0.0
カマツ土台角10.5×4	0.0	0.0	0.0	
米マツ平角	50.0	30.0	20.0	
米マツ割物	50.0	30.0	20.0	
北洋エゾマツタルキ	0.0	0.0	0.0	
北洋アカマツタルキ	0.0	10.0	10.0	

・スギ製材品の価格動向は柱角KD10.5×3が強含み。その他の品目は保合。

・ヒノキは柱角KD10.5×3、土台角10.5×4とも製材品不足から強含み。その他の品目は保合。

・外材製材品は米マツ平角・割物とも強保合。タルキは北洋アカマツは保合。

モニターからのコメント

(荷動き)

- ・国産材の入荷は順調。外材は米ツガ、WWの一部、RWの入荷悪い。アカマツは良いものは入荷ないが、1～2月に出てくる。その他はLVL、パーチも入荷悪い。販売動向は動きは良くないが前月程度。在庫は品物が薄いこと、1月に記念市を開催することもある、多めにとっている（関東）。
- ・スギヒノキは荷動き改善、外材は動き悪し。米マツは入荷悪く、米ヒバは品薄状態が続く。12月の販売は回復傾向。ただし、単価は上がらず。在庫は現状維持（中部）。
- ・素材の出材は増加傾向にあるが、製品の入荷動向は品薄に変わりはない（中部）。販売動向は、外材は単価上昇により国産材への切り替え増加もあり。在庫動向は、入荷減が若干改善。
- ・柱、間柱材の入荷量が減少すると思われる（九州）。

(価格動向)

- ・単価 スギ柱角（KD10.5cm）60,000円/m³、（KD12.0cm）60,000円/m³、スギ桁角（東北材グリーンラフ）40,000円/m³、母屋角（東北材、二等）30,000円/m³、スギタルキ（東北材）45,000円/m³、スギ間柱（特-KD）60,000円/m³、スギ加工板（東北グリーン材）東2,800円、（KD）東4,800円、スギヌキ（東北）40,000円/m³、秋田材50,000円/m³ スギ平割（プレーナー）45,000円/m³、同（ラフ）43,000円/m³、ヒノキ柱角（KD）・土台角10.5cm、12.5cm 80,000円/m³、米マツ平角 KD 68,000円/m³、米マツ割物AD 70,000円/m³、北洋アカマツタルキ（アSEMBル単価）（S）70,000円/m³、（P）60,000円/m³、（バンドル単価）（S）67,000円/m³、（P）57,000円/m³（関東）。
- ・ヒノキは、引き続き10.5角主体に品薄。予算的な面からか、10.5角が柱、土台とも主力に（中部）。
- ・スギ製材品の販売価格は変わらず。ヒノキは柱材は価格強いく、しばらくこの状態が続く。米マツ製材品は品薄状態が続く。エゾマツ、アカマツタルキは変わらず。在庫は変わらず（中部）。
- ・KD材は、スギ、ヒノキともに出荷量がもともと少ないため、九州南部での需要の高まりとともに、若干の価格上昇の兆しがある。12月は、米マツの原木高のため平角、割物ともやや上昇（九州）。